



博物館ニュース「SHŪ」 NO. 62

“SHŪ” News of Tamagawa University Museum of Education

2024年3月20日

玉川大學教育博物館



目次

展覧会への招待	2
報告	3
資料をご寄贈いただきました	5
開館カレンダー	
利用案内	6

聖三位一体（至聖三者）

ロシア 板・テンペラ 33.0×28.0cm 16世紀

3人の人の姿となってあらわれた神の訪問を受け、アブラハムが妻サラとともに饗応したとする、旧約聖書創世記第18章のアブラハムの饗応の場面を描いたイコンです。三天使として描かれた神は、父なる神、神の子イエス・キリスト、聖霊の三者が一体であるとする三位一体の教えを象徴しています。食卓を囲む三天使のみを描くことによって三位一体の神を象徴するこうしたイコンは、15世紀前半にロシアのアンドレイ・ルブリョフによって描かれ、それがロシア正教において聖三位一体を描く際の規範となりました。

展覧会への招待

玉川学園創立 95 周年記念特別展

イコンにであう –キリスト教美術入門–

イコン (icon) とは、「像」を意味するギリシア語のエイコン (eikōn) に由来する呼称です。広義にはキリスト教の聖像全般を含みますが、狭義には東方正教会において崇敬される板絵の聖像画をさします。このイコンには、イエス・キリスト、聖母マリア、聖人、天使の肖像や聖書に記される重要な出来事、たとえ話の説話物語などをあらわしたものがあり、大きさや形態もさまざまです。

イコンは、ビザンティン帝国 (東ローマ帝国) の時代に高度な発達をとげ、東方正教会の布教とともに各地にひろまりました。東方正教会を信奉するギリシアやロシアをはじめとする東ヨーロッパ諸国などでは、イコンの制作がさかんにおこなわれ、人々の信仰生活と密接にむすびついてきています。

当館は、ロシアとギリシアのイコンを中心とする 100 点あまりのイコンを所蔵しています。それらは、本学園の教育活動に資するために、1979 年の創立 50 周年記念事業の一環として収集を開始したもので、現在までに国内有数のイコン・コレクションを形成してきています。当館では、2009 年度の創立 80 周年記念特別展「イコンー聖像画の世界ー」、2014 年度の創立 85 周年記念特別展「東と西のキリスト教美術ーイコン・西欧絵画コレクションからー」、2021 年度の特別展示「新収蔵イコン展」などの開催や常設展での展示をとおして、その紹介をおこなってきました。

本学園の創立 95 周年を記念する今回の特別展は、当館が所蔵するイコンの優品を多数展示し、それぞれの主題や表現の特色、見どころなどをわかりやすく解説することで、イコンがもつ独特の美と魅力を紹介しようとするものです。

イコンにであい、その美と魅力に触れることができるこの機会に、ぜひご来館ください。



フェオドロフスカヤの聖母
ロシア 板・テンペラ 19 世紀



パントクラトールのキリスト
ギリシア 板・テンペラ 1600 年頃

◆ 会 期 2024年10月21日(月)～2025年1月19日(日)

◆ 開館時間 9:00～17:00 (入館は 16:30 まで)

◆ 入館料 無料

◆ 会 場 玉川大学教育博物館第 2 展示室

◆ 主 催 玉川大学教育博物館

報 告

企画展の開催

■「鈴木満と青木純子・青木美知枝 三人展 —玉川学園7丁目のアトリエで制作活動を続けた作家たち—」

2023（令和5）年度の企画展として、標記の展覧会を、10月23日（月）から12月17日（日）の期間で開催しました。



本展では、戦前から太平洋画会や官展で活躍した鈴木満（1913-1975）、その妻で女流画家協会や示現会の創立に携わり、女性画家の地位向上にも尽力した青木純子（1922-2016）、純子の妹で、一水会などで活躍した青木美知枝（1928-2014）、3人の画家たちの創作活動を年代と共に移り行く絵画表現に触れられるよう配し、展覧会の終盤には本学と鈴木満のゆかりをたどる作品をあつめました。

第1章「鈴木満」では、太平洋戦争の最中に描かれ、戦後GHQが接收し、米国から返却の際に模作となって日本へ帰ってきた《学徒出陣》（1944）を想い、再度絵筆をとった《学徒出陣》（1970年代）を筆頭とし、晩年に確立したテーマ「月と母子」にいたるまでの画家自身の心と画風の変遷を、かたわらに置いた画材道具などとともに紹介しました。



第1章 鈴木満

第2章「青木純子」では、初期に好んで描いた静物画から、病魔の中で見出した「人形」という一転したテーマの作品と、青木純子自身

が愛し、創作のモデルとした人形を同じ空間におき、人形の家に住んでいる、とまで言われた彼女の幻想的な世界観を表現しました。



第2章 青木純子

第3章「青木美知枝」では、生涯を通して描き続けた静物画を制作年代順におき、幻想的で静謐な作品に囲まれる空間をつくり、心落ち着く色調のなかに身を委ねて絵画との対話を楽しんでいただけるよう工夫しました。



第3章 青木美知枝

第4章「玉川学園と鈴木満」では、約17年にわたり玉川大学出版部発行の書籍に描き下ろした挿図や校内に飾る絵画、そして、本展覧会のために本学創立者小原國芳の故郷である鹿児島県の久志地区公民館からお借りした國芳と本学が所蔵する信夫人の肖像、夫婦そろった形の展示を実現しました。会期を通して1,515名のお客様にご来場いただきました。



第4章 玉川学園と鈴木満

記念講演会

「鈴木満と玉川学園7丁目のアトリエ」

11月12日、今回の企画展のきっかけである資料をご寄贈いただいた、鈴木満の甥である鈴木達也氏（玉川学園小学部卒業生）による講演会を、K-12 東山校舎講堂にて開催しました。



鈴木達也氏

第1部では、アトリエを訪れ、叔父夫妻、青木美知枝らと交流した際の思い出や日常の様子などをお話いただきました。

第2部は、当館の柿崎博孝客員教授を聞き手に、鈴木満が、小学生時代の達也氏をモデルにして描かれたと想定される絵画や創立者の肖像画にまつわるエピソードを披露されました。



対談

会場には、鈴木満・青木純子夫妻の門下生や満作品のモデル、玉川学園の卒業生や達也氏の同期生などたくさんの方々にお越し頂き、今もなお3人の画家は作品を通して身近であることが感じられるひとときとなりました。



鈴木満作「小原國芳」「小原信」

ギャラリートーク

11月23日と12月9日、本企画展の担当学芸員によるギャラリートークを開催しました。鈴木満・青木純子夫妻の下で絵画を学ばれたという方々も多数ご参加いただき、在りし日に思いを馳せながら、3人の作家を生き活きと語る事ができた、賑やかな時間となりました。



■「ミュージアム・コンサート」

12月16日、教育博物館2階ロビーにて、当館初の試みとなる館内でのミュージアム・コンサートを開催しました。チェリストのベアンテ・ポーマン氏、ピアノは当館の栗林あかね講師の演奏にはじまり、コンサート中盤には特別ゲストとして玉川学園オーケストラ部の生徒とコーチを迎えて、当館コレクション「カサド・原コレクション」由来の楽曲を演奏・紹介しました。コンサートには、70名を超えるお客様にご来場いただきました。



燻蒸の実施

2023年12月21日から29日に、本館収蔵庫の燻蒸（カビや博物館資料を食害する昆虫を、薬剤ガスで殺菌・殺虫する消毒）を実施しました。前回の燻蒸から5年経ち、事前の調査で残念ながら害虫が発見されたため、燻蒸を実施しました。燻蒸は、昆虫が活発に動く季節に行うと効果的ですが、博物館と校舎を共用する中学の教育活動を支障しない、年末の実施となりました。

燻蒸は、専門業者に委託して行いましたが、ガスの通りをよくするため、箱に収められた資料の蓋開けや、展示中の資料を一旦撤去して収蔵庫に移動させるなど、準備作業を学芸員総出で行いました。工程は21日からガス漏れ防止の日張りを行い、準備が整った22日夜から薬剤を投入、一定濃度で48時間保ちます。今季の暖冬は、薬効の面で助かりました。その後ガスが残らないように4日半かけて入念な換気を行い、29日午後に無事に作業を終了しました。投薬前に、学芸員課



ガスの気化・投薬装置

程の学生対象の見学会も開催しました。

今回の燻蒸で、生物被害のリスクがリセットできましたので、今後はこの状況を継続できるように努めていきます。

通信教育課程博物館実習

2024年2月12日から17日まで、本学通信教育課程の2月学芸員スクーリングが開講され、当館で博物館実習を行いました。受講者は全40名で、3組に分かれて実習しました。



美術資料の展示実習

統計（2023年4月～9月）

開館日数 111日 入館者数 1,233名
収集

〔資料〕	教育	19件
	芸術	1件
	学園史	1件
〔図書〕	和書 449冊	洋書 0冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	28冊
	洋雑誌	6冊

資料をご寄贈いただきました（敬称略 2023年9月～2024年2月）

小原 芳明	教育資料	4点	久米 幹男	教育資料	1点
石谷 正明	教育資料	49点	池松 香織	学園史資料	7点
岡田 尚子	芸術資料	4点	ありがとうございました		

2024年度上半期 開館カレンダー

2024年4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

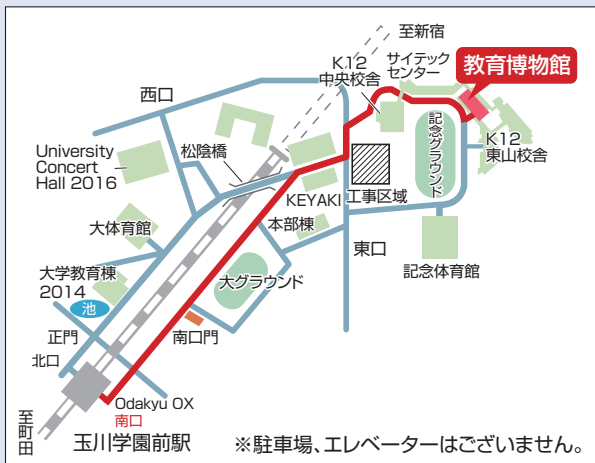
9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

休館日

第1展示室(日本教育史常設展示)のみ公開

※ この予定は、大学授業・行事日程、社会情勢等により変更することがあります。
 詳細は当館ウェブサイトをご覧ください、電話等にてお問い合わせください。



交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩 15分
 ※ 駅南口から線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。博物館にお越しの際は、校門の案内所にて入校手続きをお願いします。
 (来館者用駐車場はありません。お車での来館はご遠慮下さい。)

利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間
(臨時に変更することがあります。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。)
- 入館料 無料

博物館ニュース SHŪ No.62

2024年3月20日

編集・発行 玉川大学教育博物館

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654

www.tamagawa.jp/campus/institutions/museum/

『SHŪ』は、漢字で『集』とあらわします。
 博物館に「集」められたさまざまなものをめぐり、多くの人々の「集いの場」になるようにと願って名づけました。